

2018年3月20日 正伯塾「ふなばし学講座」

於・薬円台自治会館

「女人講の意味するもの～ムラの女性の役割～」 図版・資料

藤由美



高津新田の子安講 (2002年4月14日取材)



高津の子安講 (2005年2月19日取材)



麦丸の「子安びしゃ」 (2016年3月17日取材)

### 高津の子安講のハナミ

一、めでたやな これのおざしき ところよろこぶ はば  
 をとる なにごともかきとるように ひとのもちいのある  
 ように ひとのもちいのあるように  
 二、このむらのあねさまがたは どこへまいるか おそろ  
 いで みをきよめ かみを清めて 子安様へと ごさんけ  
 いに 子安様へと ごさんけいに  
 三、このむらのあねさまがたは やなぎだるをひきさげて  
 まずをはつを 子安様へ あとはおざえとひろめする あ  
 とはおざえとひろめする



本町2丁目路傍 「西向き地藏」  
(延命地藏像) 万治元年 (1658)



印内町木戸内地蔵堂 伝・成瀬地藏像貞享4年 (1684) 「念仏講連衆」女性19名  
左前:寛延2年 (1749) 「奉造立如意輪観世音 十九夜 講中為二世安楽」



元禄 14 年 (1701)  
本町 3 丁目不動院六面石幢  
「女念仏講為二世安樂」 女  
性名 39 名



延宝 5 年 (1677) 田喜野井  
正法寺 「十九夜講 如意輪  
觀世音菩薩 現未來願成就  
為菩提也」



安永 8 年 (1779)  
米ヶ崎 無量寺  
「奉建立十九夜講中」



文化 2 年 (1805)  
前原東五丁目御嶽神社  
「小安大明神」 石祠



文政 7 年 (1824)  
高根町神明社  
「女人講中」 石祠



天保 12 年 (1841)  
東船橋日枝神社  
「女人講中」

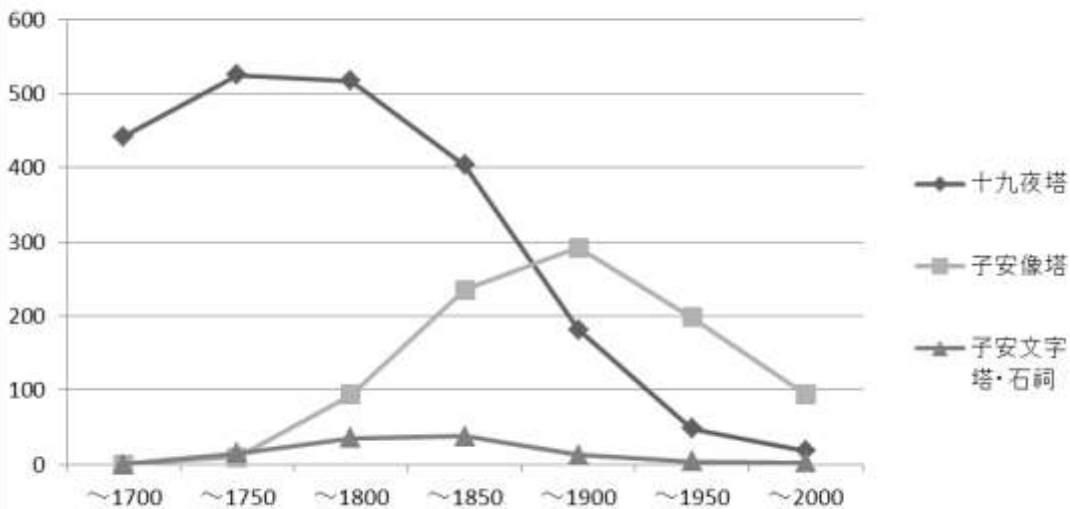


文久 2 年 (1862)  
前貝塚町 行伝寺  
「鬼子母神」



明治 20 年 (1887)  
古作町 熊野神社

下総地方の女人講石塔造立数の推移



八千代市吉橋の江戸前期石塔

No.	分類	所在	造立年月日	西暦	像容	形状	銘文 (建立年月日・☆の人名を省略)
1	二十三夜塔	尾崎	寛文 8・10・10	1668	勢至菩薩	光背型	右勢至菩薩者廿三夜待開眼成就所 吉橋村施主敬白 (☆男性 18人)
2	念仏塔	尾崎	寛文 8・10・10	1668	地藏菩薩	光背型	右地藏菩薩者日記念仏供養成就所 吉橋村施主敬白 如誦願○ ○應禪○ (☆女性 16人)
3	二十三夜塔	寺台	元禄 5・2・23	1692	勢至菩薩	笠付角柱型	②奉建立石佛一軀彫刻廿三夜開眼供養現當二世悉地成就 乃至三千百億無數刹界含識有情同至樂岸敬白 以智惠光 普照一切 令離三塗 得無上力 (☆男性 22人)
4	念仏塔	寺台	元禄 5・2・23	1692	聖観音	光背型	①奉造立石佛彫刻日記念仏開眼供養二世安樂 依 弘誓深如海 侍多千億佛 歴劫不思議 發大清浄願 結衆敬白 (☆女性 30人)
5	十九夜塔	寺台	元禄 9・10・吉	1696	聖観音	光背型	①奉修十九夜念佛結衆成就所 (☆女性 40人 男性 1人 不明 3人)
6	十九夜塔	寺台	宝永 3・10・吉	1706	如意輪観音	光背型	①奉造立真○十九夜念佛 ○為二世安樂 (☆女性 36人)








八千代市萱田の江戸前期石造物

No	造立年 所在地	形状 種類	銘文 [ ]内のカナは梵字	
1	寛文 9 (1669) 長福寺	三層塔  勢至菩薩浮彫  二十三夜・日記念仏塔	宥秀代作之 加左衛門 二郎 右衛門 二郎兵衛 / [サク]萱田村 奉造立塔供養廿三夜講 開眼當二世悉地成就 依 二月廿三日 敬白 / 一結 施主 女中衆 おつる おこう (女性計 24名) / [キリク]萱田村 日記念仏供養 開眼 諸願成就所 二月十日 敬白 / 本願花嶋七口兵衛 一結施主 / 定宥 口左衛門 口兵衛 長十郎・・ 市左衛門 文十郎 治右衛門 太兵衛 久三郎 (男性計 33名)	
2	延宝元 (1673) 飯綱神社下	笠付角柱型 三猿付 庚申塔	奉造立庚申之人数石仏立之現當二世悉地所、定宥 佐藤加左衛門 長岡与左衛門 花嶋市 口口 敬白 / およし おきく (女性計 33名) / 四良兵衛 甚左衛門 門左衛門 太兵衛 庄二郎 (男性計 15名)	